

重点活動 ブロッコリー高温期品種試験・緑肥による物理性改善効果試験の現地検討会を開催しました。

上田農業農村支援センターでは、ブロッコリーの生産体制強化に向けた重点活動を関係機関と連携し、取り組んでいます。8月17日に高温期品種試験、9月17日に緑肥による土壌物理性改善効果試験の現地検討会を開催しました。

#### ○8月17日「ブロッコリー高温期品種試験 現地検討会」

近年、夏季の高温により、花蕾品質が安定しないことから、高温期の栽培が困難な状況にあります。そこで、高温期に花蕾品質が安定する品種を選定するため、4品種を試験栽培し、地域の適応性を検討しました。

当日は、東御市現地ほ場にJA関係者等7名が出席し、試験品種の特性、花蕾品質等の確認を行い、有望品種を選定しました。また、品種以外に夏季の栽培管理、病害虫防除等の意見交換も行い、情報共有を図ることができました。

現地では、高温期の栽培で花蕾品質が安定する新品種への期待が高く、今後も関係機関と連携し、品種試験を継続していきます。

#### ○9月17日「緑肥による土壌物理性改善効果試験 現地検討会」

水田転作ほ場は、土壌物理性に問題があり、安定生産が困難なほ場があります。家畜堆肥等の粗大有機物による「土づくり」は物理性改善効果が高い反面、臭気問題、散布労力が必要なことから敬遠されています。そこで、ほ場へ鋤き込むだけで粗大有機物が供給でき、土壌物理性改善効果が期待できる緑肥に着目し、本年はセスバニア、ソルゴー、ライ麦の3品目の試験を行いました。

当日は、上田市真田町現地ほ場にJA関係者等10名が出席し、各種緑肥の特性や生育量等を確認し、意見交換・情報共有を図りました。

出席者からは、草高が低い緑肥の方が現地では導入しやすい、鋤き込む時期等について、質問・意見が出され、緑肥への期待、関心の高さがうかがえました。

今後も関係機関と連携し、緑肥試験を継続していきます。

(品種試験)



(緑肥試験)



(緑肥生育状況)

